

理系が活躍できる

コンサル業界

理系出身者が多数活躍しているコンサル業界。企業が直面する経営課題に対して様々な角度からアプローチし、解決に挑むコンサルティングファームで、なぜ理系人材が活躍できるのか。この特集では、理系の活躍フィールドとしてのコンサル業界を紹介する。

理系の素養が求められる コンサル業界

コンサルタンの主要なミッションは「クライアントの抱える課題を発見・分析し、最適なソリューションを提示すること。これは、「答えのない課題と向き合い、課題の本質を見極め、解を見出す」

ことであり、理系の研究で求められる素養と通じる部分が多いのです。事実、コンサル業界では、理系人材が研究で培った論理的思考力やリサーチスキルを高く評価しており、在籍コンサルタンの半数程度が理系出身というファームも珍しくありません。その他にも、メーカーやITといったクライアントのプロジェクトにおける技術・製品の評価などで、専

門性をダイレクトに活かせるシーンもあるでしょう。

幅広いコンサルの活躍フィールド

コンサルタントが担当するクライアントは、メーカー、IT、金融、インフラ、官公庁などあらゆる業界にわたります。またコンサルティングのテーマも経営戦

略や事業戦略の立案から、情報システム、人事制度、マーケティングと極めて多様です。

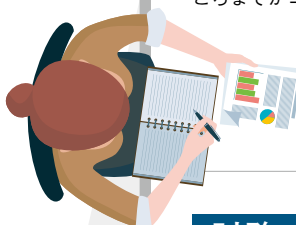
コンサルティングファームはその得意領域や出自によって「●●系コンサルティングファーム」と分類されます。どんなコンサルティングファームがあるのか、大枠で理解するために左ページでは代表的な分類を紹介します。



■ コンサルティングファームの種類

戦略系

中長期での経営戦略、新規市場参入、M&A、海外進出といった企業経営を進める上で柱となる戦略立案などを手掛けるのが、戦略系コンサルティングファーム。かつてはレポートを作成してクライアント企業に提出・プレゼンを行うところまでがコンサルの役割だったものの、現在は「いかにして戦略を実行するのか」という「実行」部分まで踏み込んだ支援を行うファームが増えている。



総合系

あらゆる業態のクライアントに対して幅広いサービスを提供する、比較的規模の大きなコンサルティングファームを指す。コンサルティングの対象が多岐にわたるため、対象とする業態（メーカー、IT、金融、官公庁など）や業務別（戦略、財務会計、組織人事、ITなど）に専門チームを組織しているファームが多い。様々な領域におけるプロフェッショナルがプロジェクトごとに協業し、最適なソリューションの提案を目指す。

財務・会計系

財務（企業再生支援、価値評価）やM&Aなどに特化した支援を行う財務・会計系コンサルティングファーム。元々は会計事務所・監査法人など、財務や会計・決算などの業務を支援していた企業がコンサルティング分野に進出したケースが多い。財務面から経営計画の策定、株式公開支援、会計関連の新制度導入・フロー改善の支援といった面で企業経営にかかわるプロジェクトが多い。

人事・組織系

人と組織にフォーカスを当て、企業の組織ビジョン、人事戦略、人事制度の改善などを行う人事・組織系コンサルティングファーム。人事制度の設計・導入から企業風土そのものの改革まで、人事・組織に関する様々なレベルでの組織変革を支援する。その他にも、企業年金制度の設計・導入といった領域では、年金アクチュアリーによるサポートを提供しているファームも。



シンクタンク系

シンクタンクとは、幅広い分野を対象とした調査・研究・分析を、官公庁から一般企業まで様々なクライアントに向けて行う機関。日本の民間シンクタンクは、もとは金融機関、メーカーなどが自社（またはクライアント）の課題の調査・分析などを行う総合研究所を独立させた経緯を持つことが多い。政策提言や調査研究のイメージが強いかもしれないが、実際はシステム開発も含め幅広いコンサルティングを行っている。

IT系

会計や業務システムなど、いまや企業経営と切っても切り離せないITシステム。ITを駆使し、企業経営を加速させるのがITコンサルティングファームだ。クライアントにとって最適なシステムを提供するためには、ITの知識だけではなく、ビジネスや業務についての深い理解も求められる。ITソリューションの提案から構築まで一気通貫で担うITコンサルティングファームも珍しくない。また、システムインテグレーターでもITコンサルタントを採用している企業がある。



コンサルティングの対象や得意領域によって様々なコンサルティングファームが存在しているということを理解いただけたらだろうか。次のページでは、業界のトレンドやコンサルタントが提供する価値について、現役コンサルタントが解説する。

DX推進、ビッグデータ活用

コンサルタントの並走で 変貌する公共サービス

ICTの積極導入やデータの利活用をベースとするDXを推進しているのは民間企業だけにとどまらない。昨今の脱炭素化、ウェルビーイング、ダイバーシティといった新たな価値観の登場、さらにはパンデミックや自然災害の激甚化などを背景に、社会や人々の生活全般を支えている官公庁や地方自治体といった公共セクターにも大きな変革が求められている。同領域においてコンサルタントが提供できる価値とは何か。デロイト・トーマツコンサルティングで公共領域のプロジェクトを担当する平田いずみ氏に話を聞いた。

公共向けサービスに注力

—— している背景を聞かせてください

近年、中央省庁や地方自治体、広域サービスを展開している公的企業など、公共領域に関する様々な課題を抱えたクライアントからのニーズが増加傾向にあります。

このようなパブリックセクターと呼ばれる公的機関は、一般的な民間企業と比べても貴重かつ膨大なデータを保有しているため、多くの機関がそれらを有効活用することで昨今の社会課題や環境問題の解決に役立てようと考えて

います。しかし、それらのデータには

センシティブな情報が含まれるケースも多く、現行の法制度の問題も含めて、実際に活用・運用するためには様々なハードルをクリアする必要があります。

そこで私たちコンサルタントは、法制度を踏まえた上でのデータ活用の支援、市場やユーザーニーズを勘案した適合性・妥当性の検討、民間企業とのコラボレーション、サービスとしてアウトプットする際のICT活用など、公共機関単独での解決が難しい様々な課題に対する総合的なソリューションを提供することで、公共サービスの成

果最大化を支援しています。

近年の公共領域の

—— トレンドやプロジェクトについて

教えてください

多くの自治体が、まちづくりにおいてICTの積極的活用を目指すスマートシティ関連の取り組みを進めています。たとえばヘルスケアや観光、SDGsに則した領域を中心に、ICTの導入とデータの利活用を促進しようとする動きが活発です。

私が参画している地方自治体のプロジェクトでは、住民の方々の健康課題

の解決や健康ニーズへの対応を目指し、個人の健康の増進、疾病の予防に資するスマートフォンアプリやWebサービスを開発する複数の民間企業の実証事業を支援しています。

同プロジェクトにおける当社チームのタスクは、実証事業を行う民間企業の募集、実証フェーズにおける採択企業への一貫した伴走サポートと、有識者の招聘およびヒアリングを含む市場確立に向けたナレッジの取りまとめなどであり、様々な側面からの支援を実施しています。

近年、コンサルタントにはどのような価値が期待されているのでしょうか

課題解決の戦略立案フェーズのみを担当するコンサル会社もありますが、当社は戦略立案から実行までの一貫した支援をミッションとしています。

近年、社会課題や環境問題の多様化・複雑化が進んでいるのと同様に、クライアントの抱えている問題、解決したい領域・テーマも多様化・複雑化を極めていきます。

それゆえ、これからのコンサルタン

トには「お客様の意図を正確に理解する能力」「ステークホルダーに対して自分たちの意図をロジカルに伝える能力」に加え、「お客様と並走してプロジェクトを実現する力」が必要であり、あらゆるフェーズでの確かな支援を実施し、課題解決の実現を導いていく価値を期待されていると感じます。

コンサルティング業界で

理系が求められる理由について教えてください

コンサルティング業務のベースの一つはコミュニケーションであり、その際のコミュニケーションには論理性が求められます。クライアントの業界・業種、提供するソリューションの内容を問わず、理系の学習や研究を通して身に付けたロジカルシンキング、仮説思考の能力を活かすことができます。

さらに言えば、コンサルタントのコミュニケーションは会話だけではなく、ドキュメントベースでも頻繁に行われます。卒論や修論の作成時に培われた論理的な文章を構築するスキルも業務で活かせるはずです。

また、研究室で教授や講師の方々に

指導を受け、自分の立てた仮説や論証を見直していくプロセスは、コンサルタントとしてクライアントや上司・先輩のレビューを受け、施策や提案内容を改善・修正していくプロセスと類似した部分があります。このような経験を積んでいることも、コンサルティング業界が理系学生を求めるポイントの一つになっていると思います。

理系学生へのメッセージを

お願いします

理系学生は大学で学んだ自分の専門性を活かしたいと考える方が多いと思います。私自身も就職活動時は、専攻していた社会基盤分野の知識を活かしやすい建設会社や鉄道会社を選ぶか、コンサルティングファームで働くか悩みました。私は最終的に「特定の分野・領域に縛られることなく、様々な世界を見てみたい」という理由で当社を選びましたが、正解は人それぞれだと思います。

私から一つ言えるのは、最初から自分の専門性だけに縛られて就職先を選ぶ必要はないということです。できるだけ視野を広げ、様々な業界・業種・

職種を検討することで自分の可能性を広げてみてください。その結果自分の専門性を活かしやすい分野に就職することになっても、そうでない分野に就職することになっても、その時に大いに悩んだことが後々の人生につながる貴重な経験になるはずです。

PROFILE

平田 いずみ (ひらた・いずみ)

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアコンサルタント
東京大学大学院
工学系研究科 社会基盤学専攻 修了

大学・大学院時代はまちづくり・景観の研究に従事。2020年4月、新卒でデロイト トーマツ コンサルティング合同会社に入社。システム・クラウド導入支援部門を経て、2022年から官公庁・地方自治体などパブリックセクター向けのコンサルティングサービスを展開する部門へ異動。現在は地方自治体のヘルスケア系の事業プロジェクトに参画中。

